



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

コロナ禍における空手道の授業実践

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-04-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 橋本, みゆき, 白波瀬, 勇太, 谷口, 善一, 原, 朋香, 深澤, 祐美子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00180047

コロナ禍における空手道の授業実践

Karatedo class practice in Corona Vortex

保健体育科 橋本みゆき
白波瀬勇太
谷口 善一
原 朋香
深澤祐美子

要旨

コロナ禍において、接触や用具を共有する場面がある武道の授業をどのように実践したらよいかについて、各校で様々な検討がなされていると思われる。そのような状況においても、安全かつ楽しい武道の授業を行うことが、今後さらに求められてくるだろう。

そこで、本実践では武道の精神性を培うことや形を学ぶことをねらいとして、空手道の授業を行った。単元の内容としては、基本動作の練習を反復して「基本形1」という形を学び、3人組で演武を披露する競技会を行った。実践を通して、空手道は運動が苦手な生徒でも楽しく安全に取り組むことができる可能性が示された。

1章 武道の授業について

1節 コロナ禍における武道の授業について

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、体育の授業実践においては様々な種目で行い方の工夫をする必要が生じた。特に接触を伴う種目や用具を共有する種目においては、接触を避けるルールに変更をしたり、複数人で用具を共有しなくてよいように人数を制限したりするなど、様々な工夫がなされてきた。

その中でも特に、武道の授業をどうしたらよいかについては、各校において様々な検討がされたことと思われる。それは、多くの学校で採用されている柔道や剣道では、対人で組み合うことで接触が増えたり、防具などの用具を共有して使用する機会が増えたりするためである。そのような状況を避けるために工夫して実践を行ってきたものの、実際に組むことが難しいことで受け身や礼法の指導に終始したり、剣道においては共有する防具の問題で実施を避けたりする等、様々な課題が挙げられている。

2節 本校における武道の授業について

柔道を取り扱っている本校においても同様で、学習指導要領に示される「相手の動きに応じて、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって勝敗を競い合い互いに高めあう楽しさや喜びを味わう」といったことが難しい状態であった。接触が制限される中で、どうすれば武道の特性に触れて安全かつ楽しく学習することができるか、検討を重ねた。

そこで試験的に、空手道の実践を行った。空手道は、組手以外では相手と接触する場面がほとんどなく、武道の特性に触れて安全かつ楽しく学習できると考えられたからである。今回

の実践では、形を中心に扱うこととした。攻撃・防御といった組手の内容は取り扱わなかったが、武道の精神性を培うことや形を学ぶことは、武道のねらいを十分に達成することが期待できると考えた。

2章 空手道の授業実践

1節 授業実践の内容と振り返り

授業者は自分の鍛錬として空手道を定期的に行っているが、空手道を体育の授業という教育の場に落とし込むため、全国空手道指導者研修会に参加していた。研修では、空手道初心者でも十分に学習効果が得られること、形を取り扱うことで接触を避けられるためコロナ禍でも実践可能なこと、空手道の授業における重篤な怪我がこれまでにないことなどを知った。さらに、研修参加者のほとんどが空手初心者の教員であったことから、空手道を学ぶ意義や礼法・基本技を理解し指導することができれば経験者でなくても多くの教員が授業で行うことができるということを知るよい機会となった。

本校における実践は、対象は本校4年生（高校1年生）、男女共習で時数は4時間とした（休校のため予定の5時間から1時間削減）。初めは空手道の特性や礼法について学んだ。その後、基本動作の練習を反復して「基本形1」という形を学び、最終的には3人組（男子1名女子2名）で演武披露する競技会を行い、審査も行うことを課題とした。対象生徒の中に空手道の経験者は現役なし、小学生時に経験ありが3人程であった。生徒の学習ノートには「静かに行うスポーツの発見、動きで語る武道の姿に心を奪われた」「空手道は遠い存在のスポーツだと思っていたが、初心者でも空手道の精神を感じることができたし、自分の形が上達していくのが感じられて学びながら楽しめた」「技も人格も磨くという行為は人生において忘れてはいけない思考だと思った」などの記述があり、多くの学びがあったことが感じ取れた。

体育・武道で空手道を実践

競技会
(審査)



正確さ
統一性
気合
目付け
残心

図1

毎時間の学習記録と振り返り

生徒
学習ノート
の記録

月 18 日	<p>授業の振り返り（主としてCriterionCについて）</p> <p>初の空手。最初の授業は初め、今日は初歩的なことを行った。空手の形がまだ漢字で通わすもの（形や剣道など）は全て精神統一が重要である。これは、この競技に限った話ではなく、普通の生活でも大切である。なのでこの空手授業をもうやるべきだと思った。この形はもう日本の文化を好きになるきっかけになる。空手の形ができた。この形は上段受けの形に打ち込みの形が組み込まれている。だから次の授業では使いたい。空手意識を高めたい。</p>	<p>態度</p> <p>安全</p>
1 月 19 日	<p>本時の目標</p> <p>使った形にも意識する</p> <p>学習内容</p> <p>準備体操、下段受け 膝形の演武練習</p>	<p>自己評</p> <p>時間</p> <p>態度</p> <p>安全</p>
	<p>授業の振り返り（主としてCriterionCについて）</p> <p>今日新しい基本形の演武の練習を行った。150、200回転の形が難しいが自分の下に円を描くようにして、比較的簡単に回転できるようにした。また回転の形、形は体に入りに比較的簡単に回転できるようにした。また回転の後必ず下段受けや上段受け、中段受けを連続で行うことなど気付いたので、できるだけ早く覚えて、次の精度を高めた。今このコンテストに向けて</p>	

図2

2節 今後の実践に向けての取り組み

授業実践後、附属大泉小学校と本校の地区保健体育科研修会で、形を中心とした空手道実技研修を行った。全員が初めての空手実践であったが、「実際に行ってみることで、苦手な生徒でも楽しく安全に活動できそうに感じた」「教師自身も難しい示範などは必要なくできると感じた」という意見が多く挙がった。今後も、このように様々な取り組みをしながら指導計画を練りなおし、授業に活かしていきたいと考えている。

Karatedo class practice in Corona Vortex

Abstract

In the Corona Vortex, it is likely that each school is considering various ways to implement budo classes that involve contact and equipment sharing situations. Even under such circumstances, there will be an increasing demand for safe and enjoyable budo classes in the future.

Therefore, in this practice, we conducted a karate class with the aim of cultivating a budo mentality and learning kata (forms). The content of the unit was "Basic Kata 1," a kata learned through repeated practice of basic movements, followed by a competition in which the students performed in groups of three. Through this practice, karate-do was shown to have the potential to be fun and safe even for students who are not good at karate-do.